

Newsletter

2017年10月22日(日) 第20回ドナーファミリーの集い® 開催報告

東京歯科大学市川総合病院
角膜センター長

島崎 潤

御挨拶

今年もドナーファミリーの集い®がイイノホールで開催されました。折からの台風接近、および衆議院選挙と重なってしまいましたが、足元の悪い中184名の方々が参加してくださいました。ドナーファミリーのビデオ、日本俳優連合の多岐川様、池水様の読み上げてくださる手紙はいつもながら感動的で、角膜移植をめぐる皆さんの思いが伝わって胸が熱くなりました。この会には東京歯科大学、慶應義塾大学を始めとする医療機関所属の多くの眼科医も参加しましたが、移植医を代表して壇上に登ってくれた東邦大学から国内留学中の柿栖康二医師の話には、角膜移植に携わる医師の思いがよく表っていました。

今年は第20回の節目ということもあり、シンポジウム形式でこれまでの20年と今後の進むべき方向について、坪田一男先生、篠崎尚史先生、青木大コーディネーター、そして私の4名でパネルディスカッションを行いました。角膜センター・アイバンクの立ち上げに深く関わった坪田、篠崎両先生のお話は、写真や年表も混じて当時を知らない参加者にもよく伝わるものとなったと思います。さらに今回は、設立初期のコーディネーターも3名参加してくれ、20年という歴史を感じさせられました。「これから20年」というテーマでは、坪田先生のiPS細胞を使った角膜再生などのイノベーション、篠崎先生の医療情勢の変化への対応、青木コーディネーターのコーディネーターの質向上、島崎のフェロー教育とアイバンク間の連携など、角膜移植をめぐる様々な提言が出されました。30分という短い時間でしたが、まとまりと拡がりのどちらもふんだんに盛り込まれた内容の濃いシンポジウムとなりました。

後半には児童劇団『大きな夢』の子どもたちによる歌「ぼくのこころもありがとう」、そしてこの20年間長きにわたってサポートして下さった方々の代表として、東京麻布ライオンズクラブ会長の村山景子様、ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社 ビジョンケアカンパニー 営業本部本部長の森岡茂晃様に感謝状をお受け取りいただきました。午後のラン・フォー・ビジョン®は台風のために中止となりましたが、ドナーファミリーと患者様、医療関係者とサポートしてくださる皆様が一同に介する貴重な機会を持つことができました。ここに、参加してくださった方々、スポンサーの企業団体の方々、および運営に努力してくれたスタッフに心より感謝の意を表します。

東京歯科大学市川総合病院 角膜センター・アイバンク

〒272-8513 千葉県市川市菅野5丁目11-13

TEL: 047-324-5800 FAX: 047-324-8590

E-mail: info@eyebank.or.jp

www.eyebank.or.jp



第21回 ドナーファミリーの集い®

次回、2018年10月21日(日)14:00~16:00 予定

会場 イイノホール&カンファレンスセンター

ラン・フォー・ビジョン®

(アイバンク啓発チャリティー皇居ラン)については、
2018年以降、充電期間に入る予定です。

ドナーホットライン (24時間対応)

047-324-1010

ドナーファミリーの集い®

DONOR FAMILY DAY

「第20回ドナーファミリーの集い®」が、10月22日(日)イイノホール&カンファレンスセンターにて開催されました。この会は、移植患者様の「直接お会いしてお礼が言いたい」という言葉をきっかけに20年前より始まりました。ドナーファミリー・移植患者様・医療従事者・サポートーの方々が一堂に集い、様々な感謝の気持ちを伝え合います。

開会の辞・ご挨拶に続き、ドナーのご冥福をお祈りし、会場全体で黙祷を捧げました。

「こえ」のコーナーでは、アイバンクに寄せられた角膜提供を決意されたドナーファミリーの声、アイバンクに関する医療従事者の声、移植をお受けになられた患者様の声を様々な形で皆様へとお届けしました。ドナーファミリーからはビデオレターとお手紙の朗読により、故人への想いや角膜提供に対する考えをお伝えいただきました。尊いご決断とそのお気持ちに対し感動の涙があふれ会場全体が感謝の気持ちに包まれました。移植をお受けになられた患者様からは、光を取りもどしてからの喜びを朗読によりお伝えいただきました。希望に満ちた日常のご

様子や角膜を頂いた事への感謝の気持ちが皆様へと届き会場が明るくなりました。そして角膜移植手術によって光をつなぐ移植医からは、角膜移植に対する医師としての考え方や志をお話しいただきました。

それぞれの立場での想いや気持ち、そして感謝の念を皆様で分かち合いながら、会場は感謝の涙であふれました。

参加者の声

- 移植医を志すものとして患者様のお気持ちが少しでも理解できました。(医療スタッフ)
- 移植を支えるコーディネーターの存在と大切さを改めて知りました。(移植患者様)
- 頂いた角膜に対し、偶然の巡り合いに感謝しこれまで以上に大切にしていこうと誓いました。(移植患者様)
- 先生方のシンポジウムでのお話はとても楽しく、そして有益でした。素晴らしいかったです。(移植患者様)
- 本当に尊い仕事をさせて頂いている事を実感いたしました。(医療スタッフ)



東京歯科大学市川総合病院
病院長

西田 次郎



厚生労働省健康局難病対策課
移植医療対策推進室室長補佐
林 久善 様



ライオンズクラブ国際協会
330-A地区第一副地区ガバナー
今井 文彦 様



東京歯科大学市川総合病院
眼科
柿栖 康二



司会 (株)フジテレビジョン
総務局放送文化推進センター
CSR推進室
木幡 美子 様

作品展

会場入り口のホワイエにおいて、移植患者様・ドナーファミリーの作品を展示いたしました。患者様の感謝の気持ちがこもった作品やドナーファミリーの想い出の作品に対し、参加者は真剣な眼差しで観覧されておりました。光のリレーに対する感謝の気持ちが皆様に伝わったと同時に、移植医療について考えるよいきっかけとなったと思います。その他、ご後援・ご共催いただいた公益社団法人日本臓器移植ネットワークおよびアイバンクのポスターなどが啓発用として展示されました。



児童劇団「大きな夢」



児童劇団「大きな夢」の子どもたちより、優しい歌声のプレゼントが贈られました。児童劇団「大きな夢」関係者の皆様には、会の趣旨に賛同いただき、毎年たくさんの子どもたちにご協力いただいております。子どもたちの響く歌声♪「ぼくのこころもありがとう」が参加者全員の心をつなぎ、閉会を迎えました。

20周年記念シンポジウム ~角膜センター・アイバンク これまでの20年・これからの20年~



アイバンクの立ち上げ～それぞれの思い～

(坪田) 市川総合病院へ着任時、**アイバンクを作りたい!**と強く思い、当時日光でイモリの先生だった篠崎先生にお願いしました。

(篠崎) 坪田先生に市川へと呼び出され、移植を必要としている沢山の患者様を見て、坪田先生と共にアイバンクの設立を決意しました。

(島崎) 坪田先生の2年後輩で、眼科学の多くを教えて頂きました。「一緒に角膜をやらない?」と言われてから20年、私の使命は角膜センターを患者さんに見える形で還元する事だと考えてきました。

(木幡) アイバンクが設立された当時よりメディアでの協力をしてくれました。先生方のパワーは凄いものがあり、「この人たちならば何でもできてしまう!」と当時の印象を思い出しました。

発展

(坪田) ランフォービジョンやドナーファミリーの集い、角膜センタービル竣工など多くのイベントを実現できました。この20年間の活動は皆様のお蔭です。感謝しています。

(篠崎) アメリカにわたり50施設を見学し、**何とか日本でもシステムを作りたい**と無我夢中でした。そして(勝手に…)**日本で初めてのアイバンクコーディネーター**(以下Co.)を名乗りました。

(島崎) 日本各地から学びに来る若い医師が増え、移植の件数は伸び続け、**約20年で5000件**を達成しました。今では角膜移植日本一と言われていますが、それは仲間に支えられてこそだと思っています。

(青木) 激動の時代を作り上げて来られた諸先輩方に日々感謝です。会場にも初代～3代Co.がお見えになり、また、日本全国より25名のCo.がお手伝いに来てくれました。**縦・横のつながり**に感謝しています。

これから進むべき道

(坪田) イノベーションが必要です。現在iPS細胞から角膜内皮細胞を作成する事に成功し、来年は治験を開始し、未来の角膜移植となります。20年後の2037年には米国最大のサイトライフと同じ水準・同じ規模のアイバンクが日本にもできるように目指そう!

(島崎) 1つのアイバンクで出来る事は限界がある、そこで、**ネットワークの活用**が重要だと考えています。全国へ送り出した若い移植医達の移植件数は市川病院の3倍です。これからは全国的な活動を視野に入れた私達の役割が重要になってくるでしょう。

(篠崎) 超高齢化人口ピラミッド・医療制度の中で、**時代に即した体制**が必要、アイバンクをどのように見据えていくのかが大切です。Co.が夢を追って仕事をする事!これが僕の夢です。

(青木) Co.の役割を考えたとき、**Co.の教育と業務の標準化**が必要です。全国的な活動やCo.の立場を構築することが重要であり、私の使命だと考えています。

(木幡) 理想の実現には沢山のハードルがありそうですが、**1人1人ができる事**があり、ちょっとした啓発活動が重要になると思います。本日は新しいアイバンクのミッションや社会・時代にマッチした体制整備の必要性が理解できました。

進行 木幡 美子様 (株)フジテレビジョン
シンポジスト 坪田一男先生 慶應義塾大学医学部 眼科学教室 教授
篠崎 尚史先生 慶應義塾大学医学部 特任准教授
島崎 潤 東京歯科大学市川総合病院 眼科部長/角膜センター長
青木 大 東京歯科大学市川総合病院 角膜センター・アイバンクコーディネーター
(文中敬称略)

ラン・フォー・ビジョン® -アイバンク啓発チャリティー皇居ラン RUN FOR VISION®

ラン・フォー・ビジョン®の準備は、開催日の選定や日比谷公園・健康新場の仮予約など、約一年前から始まります。協賛、共催、後援、協力をお申し出くださいました企業団体様多くのご支援のもと準備を開始し、今年は第20回という節目のため、アイメイト(盲導犬)体験歩行や、千葉県マスコットキャラクター「チーバくん」登場などの企画も進めておりました。しかしながら超大型台風21号の接近により、視覚障害者23名を含む265名のランナーとボランティア約190名の安全確保が困難と判断し、開催日前日の夕方やむを得ず開催中止の決断をいたしました。お申込みをいただき出走を楽しみにしていらした皆様の心中をお察しいたしますと心苦しい限りですが、この度の大会中止の判断をご理解いただけますようお願い申し上げます。



【共催】 慶應義塾大学病院眼球銀行、(一財)北海道アイバンク、(公財)山形県アイバンク、(公財)静岡県アイバンク、(公財)福井県アイバンク、(公財)兵庫アイバンク、(公財)熊本県移植医療推進財団、京都府立医大アイバンク、東京大学医学部附属病院組織バンク、(一社)日本スキンバンクネットワーク、福岡大学病院 脳島バンク、北里大学病院 骨バンク

【後援】 厚生労働省、日本角膜学会、(一社)日本再生医療学会、(一社)日本抗加齢医学会、(公社)東京都眼科医会、東京麻布ライオンズクラブ、行徳ライオンズクラブ、市川パインツリーライオンズクラブ、(福)日本点字図書館、東京視覚障害者ランニングクラブ、(公財)日本テレビ小鳩文化事業団、(公社)日本臓器移植ネットワーク

【協力】 関東学生陸上競技連盟、NPO日本盲人マラソン協会、児童劇団「大きな夢」、(協)日本俳優連合、国士館大学防災・救急救助総合研究所、東日本高速道路(株)、(株)ランナーズステーション、(公財)アイメイト協会、(株)コー・ランナーズ

ラン・フォー・ビジョン®

20年の歩み

第1回大会は、今から20年前の1998年10月10日、目の愛護デーと体育の日にちなんで開催したのが始まりです。アイバンク啓発活動として、一人でも多くの方に「目の見える喜び」を知っていただく良い機会になれば、と始めました。その名も「光に向かって走ろう!」イコール「Run for Vision®」です。もともとこれは、アメリカアイバンク協会がアメリカ眼科学会の中で、走った分だけ募金する形で始め、今も続いているチャリティー・ラン・イベントの名前です。これを角膜センターでも取り入れ、その後、皆様に浸透し、商標登録をするまでに至りました。そして、何より、視覚障害者ランナーも晴眼者も一緒になって安全に楽しく走れるというのが、この大会の目指すところでした。本大会はチャリティーランニング大会ですので、多くの方々のご理解とご賛同、そしてご寄付によってはじめて成り立つ会です。

20年間、秋空の下、大勢のランナーと一緒に汗を流してきました。第1回～第15回大会までは、集会場所を千鳥ヶ淵公園(半蔵門側)とし、そこからスタート、ゴールするというものでした。(社)東京陸上競技協会の審判員による計時・計測があり、今思うと昔ながらの計測方法は、200人ほどのランナーに対してはさぞかし大変だったろうと思います。第11回大会からは、計測チップを導入しましたが、世のランニングブームも重なって、皇居外周のランニングにもいろいろと規制がかかるようになりました。第16回大会からは、スタート、ゴールが桜田門地点になり、そのため、集会場所も日比谷公園の健康広場に移ることになりました。同時に、計測することが不可能となりましたが、タイムは気にせず、自分のペースで走る、を合言葉に楽しく走っていただくことができました。といっても、19回には、沢山のご要望により、桜田門でも計測できるようなシステムを取り入れ、計測を復活させたところでした。

この楽しいランニング大会の裏には、支えてくださったボランティアの方々がたくさんいらっしゃいます。

まずは競技を全面で支えてくださった東京視覚障害者ランニングクラブの方々。コース係員をはじめ、視覚障害者ランナーのフォローアップなど、彼らがいなければ、この大会は成立しなかったといっても過言ではありません。

第9回からは、お正月の箱根駅伝でお馴染みの関東学生陸上競技連盟の学生選手たちによる視覚障害者ランナーの伴走が始まり、はつらつとした若いパワーで、大会を大いに盛り上げてくれました。

お陰様で大会が大きくなるにつれ、エントリーの数も300名を超すようになると、AED救護隊として国土館大学 防災・救急救助総合研究所にお願いし、コース上でランナーの安全を見守っていました。これまで大きなケガ人など出さずに、安全に行ってこられたのは、このようなサポートがあってのことです。また、東京麻布ライオンズクラブの皆様は、普段からアイバンク活動にご支援いただいている強力なサポーターですが、献血登録推進運動から地点誘導・給水所など幅広く大会を支えてくださいました。

さらに協賛企業各社には、金銭面だけなく、実行委員、ボランティアとして会の運営面でも惜しみないご協力を頂きました。

その他、たくさんの方々が支えてくださいましたこと、改めて心より感謝申し上げます。

そして、この会の功労者は参加くださったランナーの皆様であることは言うまでもありません。

これまでこの会の趣旨に賛同しエントリーしてくださった総勢4,500人の皆様、お一人お一人に、この場をお借りし、お礼を申し上げたいと思います。**20年間「ラン・フォー・ビジョン®」を愛してくださいありがとうございました!**

第1回大会スタート



視覚障害者も伴走者も晴眼者も一緒に



第19回桜田門前スタート

第6回ポスター
瀬古利彦監督(当時)が参加

[ご協賛一覧] 第20回ドナーファミリーの集い®、ラン・フォー・ビジョン®にご協賛いただきましてありがとうございました。

ACUVUE®
BRAND CONTACT LENSES

Santen

今日を愛する。
LION

Dole

Pegasus

SUNCREST

UNITED AIRLINES

あなたから始める次のための健診
わかさ生活。

熊本県ライオンズクラブ
献眼・献腎・献血運動協力会

ワシエスマディカル株式会社
医療法人仁和会 熊本眼科医院
医療法人社団 藤和会 加藤眼科
株式会社コナーン・メディカル
アルコン フーマ株式会社
理研株式会社

東京麻布ライオンズクラブ

株式会社メディカル葵出版
千寿製薬株式会社
株式会社メディプロデュース
株式会社アイタック一級建築士事務所
医療法人社団慶涼会 東松戸はなぞの眼科
株式会社イナミ

日本アルコン株式会社

NPO法人グリーフケア支援協会
ロート製薬株式会社
市川パインツリーライオンズクラブ
株式会社フォーシーズ
株式会社エムイーテクニカ
株式会社薬研社

興和株式会社

HOYA株式会社
株式会社オグラ
コカ・コーライーストジャパン株式会社
行徳ライオンズクラブ
医療法人社団 玉城眼科
福岡大学病院 脳島バンク

WHITE MEDICA
株式会社ホワイトメディカル

井上眼科病院
アステラス製薬株式会社

チャリティー大会の収益金の一部は、主催・共催アイバンクおよび組織バンクの活動推進のために役立たせていただきます。